

「家がいいね」 第115号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2013. 12. 9

この顔に責任をもたなくちゃ

人は直接に自分の顔を見ることはできないと言われます。鏡か、写真で間接的に見るだけです。よく見ると、私の顔に消せない皺が213?と並んでいます。この皺は眉毛を引き上げる癖でついたようです。それは目を見張る動作のせいにも思えます。

寝ている間は消えているでしょうか? バカボンパパのように繋がってクッキリになってても、それはそれで、いいのだ!



ハンタイまで他人任せではダメなのだ!

特定秘密保護法ですが、手続きが良ければ悪法も法だと言っておれません。機械的多数決が民主主義とこれからも押し通すのでしょうか。多数の根拠も元を辿れば危ういものです。1年前の選挙での自民党の得票率は、小選挙区43%、比例区28%で、それで多数派になっただけです。石破くんも安倍くんも、12万票獲得の地元議員にすぎません。かくも少数で支配する権力を得た者の無節操さを、たやすく忘れるなんてできません。都合がイイからと選挙制度を変えずに、都合が悪くからと憲法や法を変える議員はダメなのだ!

陽にあたろう

冬至も近くなりました。

気分もすぐれずヤル気も出ないのは、太陽エネルギーが低下してる時期だからだと思います。命の源が太陽なのだから何をおいても日向ぼっこが必要です。ウツの人にも陽にあたりましょう。



北欧の人は、これを生活の常識にしていますね。

在宅医療はこれから益々必要とされるけど

「国家戦略としての在宅医療シンポ」の題にひかれ11月17日(日)千葉県柏市まで研修出張しました。33歳の青年医師が、日本人でありながら英国で8500人の登録された地域住民を相手に5人の家庭医のチームの一員として、在宅やプライマリケアに携わる例を聴かせてもらいました。時間外や週末の急な依頼には、バックアップの別の家庭医が担当し、医師全体の生活を大切に、組織化していました。問診と丁寧な診察で検査や服薬を控えつつ、医療は公共財として社会や個人を相手にする、医者冥利に尽きるような姿でした。視野を広く持つためにも、他国の良い実例でした。

進富座は来年も続く

映画館は地域の文化センターです。来年も個人の努力で続けて頂けるとに感謝です。サポーター制度に協力し地域文化の将来を支えましょう。



年末年始には、「大統領の料理人」「ハンナ・アーレント」そして、認知症の母との日々を追って評判の漫画の実写版「ペコロスの母に会いに行く」が上映されます。ぜひ、御覧くださいませ。

永六輔さんの講演会があるよ!

いのちの大切さを考える素晴らしい機会です。1月19日(日)午後、ハートプラザみその詳細は次号。地元ケアマネ協会の主催で予定です。

年末年始のお休みは、少し長いですが29日(日)~1月5日(日) 休診
この間も訪問患者さんへは24時間対応です



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
ホームページ <http://isezaitaku.com>